機械器具 25　医療用鏡

管理医療機器　単回使用電気手術向け内視鏡用スネア　38827000

カネカバイポーラスネア S

再使用禁止

【警告】

1. スネア内に筋層を巻き込んでいないことを十分に確認した後通電すること。
   ［組織穿孔等を引起す可能性があるため］

【禁忌・禁止】

1. 再使用禁止
2. 腹水貯留、心肺疾患、妊娠患者
3. 切除径 40㎜ 以上の病変
   ［十分な切開ができず、出血、穿孔等の有害事象を引起す可能性があるため］
4. 指定品以外の延長コードとの組み合わせによる使用
   ［通電が不可となる可能性があるため］

【形状・構造および原理等】

本添付文書は、カネカバイポーラスネア S（ドラゴネア　BSD シリーズ）に適用します。
但し、先端針付タイプは除きます。

〈本品の構成〉

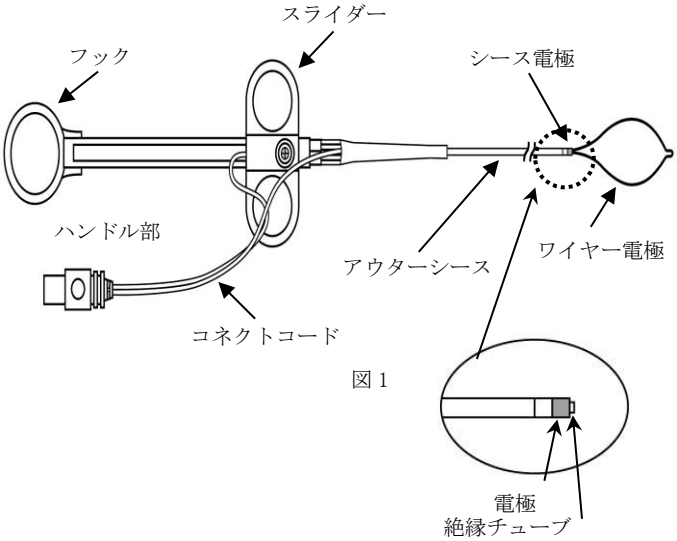


図 1

本品は先端側からスネア部、アウターシース部、およびハンドル部からなる一体型で構成されたバイポーラスネアです。（図 1）

本品は、滅菌品であるので、そのまま直ちに使用できます。

先端のスネア部は患部組織を把持・切除するためのワイヤー電極およびワイヤー電極と対極となるアウターシース先端に設けられたシース電極部で構成される双極構造となっており、アウターシース内には双方の電極へ高周波電流を通電するための導線を絶縁するため絶縁チューブが内蔵されています。

高周波電流はワイヤー電極とシース電極の間を流れ、ワイヤー電極で絞扼している患部組織へのアーク放電により細胞内の水蒸気爆発を誘発し、切開・凝固します。

手元側のハンドル部には先端ワイヤー電極を出し入れ操作するスライダーおよびコネクトコードが設けられ、コネクトコードから付属品の延長コード（別売品）を介し高周波電源装置に接続します。

〈原理等〉

1. 本品は、ワイヤー、シース、ハンドルにより構成されている。
2. ハンドル部のスライダーを操作することで、ワイヤーループをシース先端で開いたり、閉じたりする。
3. 上記操作によりポリープを把持し、高周波電流を通電することで消化管粘膜を凝固焼灼しながら、ポリープを切除する。

【使用目的又は効果】

1. 本品は内視鏡を通してポリープの切除術時に用いられるバイポーラスネアであり、延長コードとともに使用される。

【使用方法等】

A. 使用前点検方法

バイポーラスネア使用前に通電テストを実施することをお薦めします。通電テストは下記方法で行ってください。

注意

- ○ 通電テストは開封直後の一回限りとし、繰り返し行わないこと。
- ○ 発光ダイオードの点灯、ガーゼからの蒸気の発生が確認できたら、直ちに通電を中止すること。
- ○ 術者は通電の際中は絶対にスネアの金属部分に触れないこと。
  ［外傷、火傷の恐れがあるため］
- ○ 通電テストに石鹸を使用しないこと。
  ［ワイヤーおよびシース電極に石鹸が付着し通電不良を引起す可能性があるため］

・ガーゼを使用する場合

1. 約 10cm 四方のガーゼを膿盆等にのせ、生理食塩水にしっかりと浸してください。
2. ガーゼの端を直径で 5㎜ 程度、ワイヤー電極でしっかりと把持し、シース電極と接触させてください。
3. ガーゼから蒸気の発生が確認できたら通電を中止してください。

・発光ダイオードが点灯しない場合もしくはガーゼから蒸気が発生しない場合は下記を確認してください。

注意

下記操作を行っても発光ダイオードが点灯しない場合あるいはガーゼから蒸気が発生しない場合は、通電不良を起こしている可能性があるため、当該スネアは使用しないこと。

a. ガーゼが生理食塩水に浸っているか。ガーゼにワイヤーおよびシース電極がきちんと触れているか。
b. 高周波発生装置の電源スイッチがオンになっているか。
c. スネア、延長コードの接続に問題ないか。

B. バイポーラスネアによるポリープ切除方法

注意

- ○ 内視鏡内に本スネアを挿入する際は、必ず高周波発生装置の電源を切ってから行うこと。
  ［ショートや火傷を引起す可能性があるため］
- ○ 内視鏡内に本スネアを挿入する際は、必ずワイヤー電極がアウターシース内に収納されていることを確認すること。
  ［内視鏡の破損につながる恐れがあるため］
- ○ ワイヤーおよびシース電極に、汚れあるいは焼灼後の組織の付着がないことを、通電前に確認すること。
  ［十分な切開ができない可能性があるため］
- ○ 延長コードのコネクタが、高周波発生装置のアクティブ側並びにリターン側の両端子に接続されていることを、通電前に確認すること。
  ［十分な切開ができず、出血、穿孔等の有害事象を引起す可能性があるため］

○ 通電チェック時、通電が確認できない場合、スネアは使用しないこと。
［スネア、延長コードが断線している可能性があるため］

1. 使用する高周波発生装置に適した延長コードをアクティブ側端子並びにリターン側端子の両方に接続します。延長コードにスネアのコネクトコードを接続します。
2. ハンドルのスライダーを手元側に引き、ワイヤー電極をアウターシース内に収納してください。
3. 内視鏡の鉗子口からシースを進め、モニターでアウターシース先端が目視できる位置まで押し進めます。

注意
○ ワイヤー電極はアウターシース内から勢いよく露出させないこと。
［ワイヤー電極の先端で組織を損傷する可能性があるため］
○ 切除径 20㎜ 以上の病変を切除する場合は、必ず内視鏡的粘膜切除術（endoscopic mucosal resection;EMR）を用いて切除すること。
［スネア内に筋層を巻き込み穿孔を引起す可能性があるため］

4. ハンドルのスライダーをゆっくり押しシース先端からワイヤー電極を出し、ワイヤーをポリープの基部に掛かるようにワイヤーの位置を調整してください。その際ワイヤーおよびシース電極がポリープ基部に接触するようにワイヤーでしっかりと把持してください。

注意
○ ワイヤー電極部とシース電極部が確実に組織に接触していることを確認すること。
［ワイヤー電極部とシース電極部間で高周波電流が通電されるため、接触が不十分だと、不通電あるいは思わぬ部位を焼灼し穿孔等を引起す可能性があるため］

5. 高周波発生装置の電源スイッチをオンにし、切開モードと出力設定を決定してください。
6. モニターで確認しながら、高周波発生装置に接続されているフットペダルを踏み通電を開始してください。

注意
○ 切除のための通電時間はポリープの大きさや患者の状態を観察し、適当な速さで絞扼を行うこと。
［バイポーラスネアの場合、切除方向に通電が行われるためモノポーラと比較し切れ味がよく素早く切除すると組織の凝固不足で切除される可能性があるため］
○ 通電時間が長くなる場合、患者および通電部位を十分に監視し、異常が認められた場合直ちに通電を中止し、患者、器具の状態を確認すること。

7. 通電を開始したらワイヤー電極を適度に絞扼しながらゆっくりと焼灼してください。この時、フットペダルは必ず連続的に踏んでください。
8. ポリープ切除後は患部に出血等が生じていないか確認し、必要に応じ止血クリップ等の内視鏡的処置を行ってください。
9. 切除後のポリープ片は把持鉗子等により除去してください。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意
1) 万一の緊急処置として、外科的処置等を必要とすることがあるため緊急時の処置に対する十分な用意をすること。
2) 本品は高周波発生装置に接続して使用する。高周波発生装置の使用上の注意については、使用する装置の添付文書等を熟読の上、その指示に必ず従うこと。
3) 通電は必ずモニターによる監視下で行うこと。シース電極部が接触している周囲の組織が異常に白くなりはじめたら、通電を中止し、通電部位を確認すること。
［穿孔等の有害事象を引起す可能性があるため］
4) 通電時、延長コードをループ状に丸めたり、他の医療機器（心電図、内視鏡像ビデオカメラ、高周波発生装置等）のコードと一緒に束ねたりしないこと。また、心電図モニターとの併用は避けること。
［高周波信号や焼灼時の火花放電のノイズにより、他の医療機器の誤作動を招き患者に悪影響を与える可能性があるため］
5) 指定の延長コード以外との組合せで使用しないこと。

2. 不具合・有害事象

・不具合

本品の使用に伴い、以下のような不具合が発症する場合があります。臨床上、十分な観察と警戒を行い使用してください。

1) 通電不良
臨床中通電ができなくなった場合、下記可能性が考えられます。スネアを交換してください。
① スネア断線
② コネクトコード断線
③ 延長コード断線
④ 高周波発生装置不具合（機器製造元へお問合せください）
2) 切除不能
ポリープの切除が十分にできなかった場合、下記可能性が考えられます。通電条件の確認を行い状況に応じた処置を行ってください。またスネアに異常が見受けられた場合は、手技を中止し交換してください。
① 出力設定が適切でない
② 通電が連続的に行われていない
③ ワイヤー電極およびシース電極がポリープに各々十分に接触していない
④ 切除対象ポリープが本スネアでの焼灼切除に適さない
⑤ ワイヤー電極がアウターシース内に収納できない
⑥ ワイヤー電極側から発熱していない
⑦ アウターシース先端の絶縁シースの変形
3) アウターシース破損
アウターシースの破損は、下記原因が考えられます。使用を中止し、スネアを交換してください。
① 内視鏡内挿入中の鉗子口側での折れ曲り
② 長時間通電あるいは両極間ショートによるシース発熱
③ 有機薬品（アセトン、ベンゼン、アルコール類、その他）への接触による樹脂部分の損傷
④ ワイヤー電極とシース電極のショートによるシース先端側絶縁シースの損傷
⑤ ハンドルとの接続部破損等による外れ、折れ曲り
4) ハンドル部破損
ハンドル部の破損は、下記原因が考えられます。使用を中止し、スネアを交換してください。
① 過度な力がかかった場合の損傷
② 有機薬品（アセトン、ベンゼン、アルコール類、その他）への接触による損傷
5) ワイヤー電極切断、変形
ワイヤー電極の切断、変形は、下記原因が考えられます。使用を中止し、スネアを交換してください。
① ワイヤー電極、シース電極の接触によるスパーク発生による切断
② 組織へ通電中、過電流によるスパーク発生による切断
③ 切除後組織付着状態での再通電によるスパーク発生による切断
④ ポリープ絞扼の際、締め付け過ぎによる変形
6) ワイヤー電極開閉不能
ワイヤー電極の開閉不能は、下記原因が考えられます。使用を中止し、スネアを交換してください。
① アウターシースの折れ曲り
② ワイヤー電極の折れ曲り
③ ハンドル部折損等による操作不能

7) その他の不具合
以下の不具合が生じた場合、使用を中止し速やかに他のスネアあるいは延長コードに交換してください。
① コネクトコード抜け、端子部破損
② 延長コードプラグ部外れ、コネクトコードとの嵌合不具合

・有害事象
本品の使用に伴い、以下のような有害事象が発症する場合があります。臨床上、十分な観察と警戒を行い使用してください。

1) 出血、穿孔
①ポリープを把持した際、スネアループを強く絞めすぎないこと。ただし、ワイヤーおよびシース電極は必ず組織に接触させること。
［ポリープによってはワイヤーの締め付け力だけで切除される場合があり、出血の原因にもなるため］
②クリップ等の金属が使用されている場合、ワイヤーおよびシース電極を接触させないこと。
［各々の電極を金属に接触したまま通電を行うと思わぬ場所の焼灼あるいは穿孔につながる可能性があるため］
③通電の際、ワイヤー電極部とシース電極部が共にポリープに確実に接触していることを確認すること。
［正確に接触していないと思わぬ場所を焼灼し穿孔等を起こす可能性があるため］

④スネア内に筋層を巻き込んでいないことを十分に確認した後通電すること
［組織穿孔等を引起す可能性があるため］
2) 熱傷
①通電中、患者が異常を訴えたら直ちに通電を中止し、状態を確認すること。
［無理に通電を続けると熱損傷等の有害事象を引起す可能性があるため］
②通電の際、ワイヤー電極部を正常組織に接触させないこと。
［ワイヤー電極部が接触した部分は熱損傷等の有害事象を引起す可能性があるため］

【保管方法及び有効期間等】
1. 保管方法
水濡れに注意し、直射日光・高温多湿を避け室温にて保管のこと。
2. 有効期間
本品貼付ラベル記載の使用期限参照のこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】
〈製造販売元〉
名　　称：株式会社カネカ
電話番号：06-6226-5256

〈製造元〉
名　　称：ゼオンメディカル株式会社　高岡工場

〈販売元の氏名又は名称等〉
名　　称：株式会社カネカメディックス